

# はくさん

第50巻 第2号

## 目次

P1  
白山室堂平の今昔  
宮崎 顕治

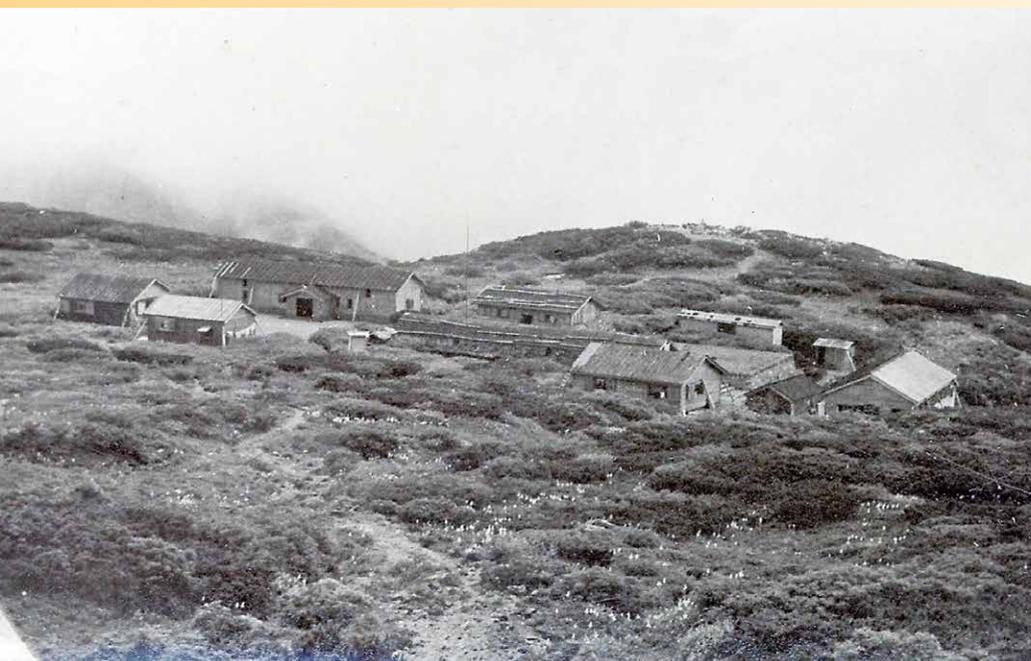
P2  
白山国立公園指定  
60周年に際して  
染谷祐太郎

P8  
第7期白山自然ガイド  
ボランティア養成講座  
を終えて  
川島 敦仁

P12  
自動撮影カメラが捉え  
た登山道（楽々新道）  
の動物たち  
近藤 崇  
北市 仁

P14  
白山のアリヅカムシ  
（その2）  
中田 勝之

P16  
センターの動き  
南竜野営場新トイレ



## 白山室堂平の今昔

表紙上にある白黒写真は、国立公園に指定された昭和30年代の室堂平の写真で、下のカラー写真が現在のものです。

上の写真を見ますと、写真の中央右寄り（一番頂上側の建物）に事務所（受付）があったとのこと。また、写真左側の最も頂上側の建物（切妻屋根）が社務所で、現在の白山奥宮になります。

現在は、写真中央にビジターセンターが大きく目立ち、写真左側に宿泊棟3棟、手前に奥宮祈祷殿などの施設が整然と並んでいます。  
(宮崎 顕治)

# 白山国立公園指定60周年に際して

そめや  
染谷 祐太郎（環境省白山自然保護官事務所）

## 1. 自己紹介

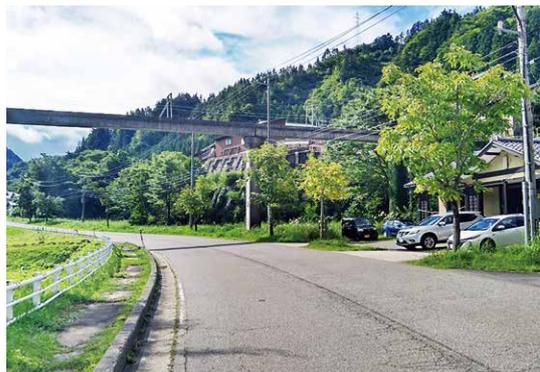
白山市白峰に、環境省の白山自然保護官事務所があります。別当出合からの白山登山者が必ず通るのではないかとされる、牛首川に流れ込む流雪溝の高架下にある事務所です。自然に囲まれた場所で、思い立ったらすぐに市ノ瀬まで行ける、白山登山が好きな人であれば夢のような立地にあります。日本有数の豪雪地域である白峰にある事務所のために、冬になると朝は雪かきから始まる、そんな職場です。

申し遅れましたが、白山自然保護官事務所今年4月より着任しております、染谷と申します。白山に赴任する前は、和歌山県田辺市の事務所、吉野熊野国立公園の管理官として働いていました。そこでは主に「海域公園地区」という、海の国立公園の担当として、海洋プラスチックごみ問題にも繋がる海底清掃業務や、世界北限域とされるサンゴ群集のモニタリング調査などを実施していました。

また、実は吉野熊野国立公園も、奈良県と三重県にまたがる「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」や、和歌山県の南側に位置する「南紀熊野ジオパーク」があるなど、ユネスコエコパーク・ジオパークといった白山との共通項があり、そういった資源をどう利用に繋げていくか、観光も促進しながら保護とのバランスをうまく取っていくには、ということで日夜頭を悩ませておりました。

白山国立公園に移り、本州南の温暖な地から豪雪地帯へとかなり気候が異なる地への異動で、さらに海の仕事から山の仕事にガラッと変わったこととなります。とはいえ、私自身は大学生時代に何度も白山を訪れていたこともあり、強く志望していた配属先でしたので、願いが叶ったこととなります。公務員の人事の巡りは時の運ですが、白山国立公園への内示が出たときには思わずガッツポーズを取るくらいに喜んだものでした。

（吉野熊野国立公園もとても美しいところなので、是非、皆さんも訪れてみてください）



白山自然保護官事務所（夏）



白山自然保護官事務所（冬）



和歌山県・天神崎の夕暮れ



和歌山県・フェニックス褶曲

## 2. 白山国立公園指定60周年について

さて、白山国立公園は、昭和37年（1962年）11月12日に指定を受け、本年指定60周年を迎えます。60年と言えば、人の年齢で言えば「還暦」。十干十二支が一巡して、「出生時に還る」ということで自身の原点に立ち返るような機会であるとも捉えられます。そうした観点で白山という山を考えてみますと、白山は時代ごとに、関わる人々の暮らしに応じて様変わりしながら過去から現在に至っていますが、自然に対する親愛や信仰の対象であり続け、人々にとってかけがえない代えられない存在として、本質的なところは変わらずにいます。

現代は、気候変動問題等の社会問題の中で「持続可能性」というキーワードが非常に重要なものとして再認識されてきています。また、なによりもコロナ禍による人々の生活様式の変化に伴い、人と自然との関わりが変化してきています。そんな時代の中で、白山と私たちはどのように関わっていくのがより良い未来に繋がるのでしょうか。

そのようなことを考えるために、この白山国立公園指定60周年という節目の年、「変わる白山 代わらない白山 次世代に継ぐ 人と自然の共生」をテーマに、白山国立公園の価値を広く再認識して、これからの白山国立公園の在り方について考えを深めていくことができれば、と考えています。

前置きが長くなりましたが、本稿では、その一助となるように、白山国立公園とはどういったものか、また環境省として大きく目指している姿について、ご説明します。



白山国立公園指定60周年 ロゴマーク

## 3. 改めて国立公園について

そもそも国立公園とは何でしょうか。一般に「公園」と聞くと、町中にある運動公園や史跡公園、海浜公園など、日常生活の中にある公園をイメージされる方が多いのではないかと思います。とはいえ町中の噴水や遊具が整備された公園と、白山とは受ける印象は大きく異なります。何が違うのでしょうか。

法制度上、「公園」は大きく2つに大別され、「都市公園」と呼ばれるものが前者に当たります。都市公園は、日本においては「営造物型」という形態を取り、基本的には管理者が土地を確保して、多くの人々が利用しやすいようにデザインされた施設整備が行われることが多いです。

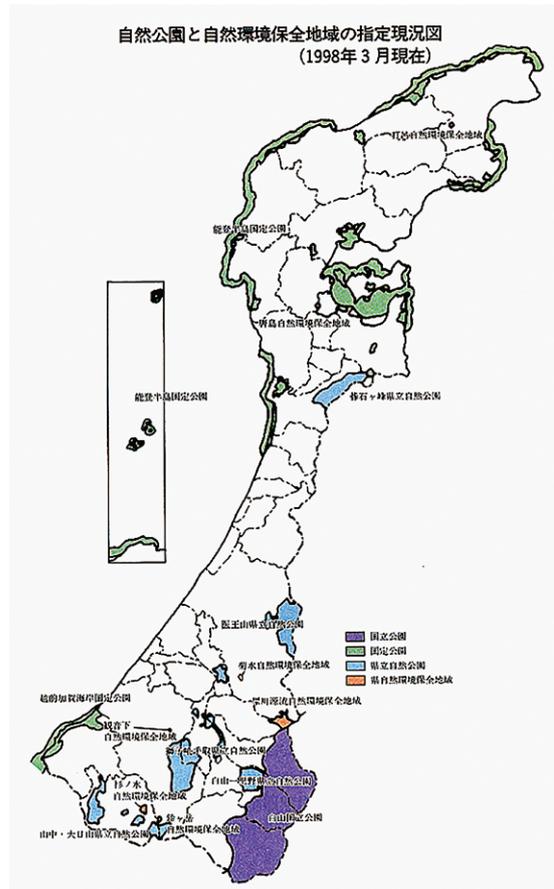


それに対し、国立公園は「自然公園」というものに分類されます。こちらは「地域制」という形態を取り、必ずしも管理者が土地を所有するわけではなく、その地域の営みをそのままに、上から重ねる形で区域を指定しています。

どちらの公園も、多くの人々に楽しんでもらうことを前提としたものですが、自然公園の場合は「そのままの自然」を楽しんでもらうために、できるだけ現在の景観を保全することを目的として、開発行為の制限や、動植物の採取に規制が掛けられています。

自然公園法で規定される自然公園には、国立公園のほかに、国定公園、県立自然公園があります。石川県には右図のとおり、1つの国立公園、2つの国定公園、そして5つの県立自然公園があります。自然公園は、後述しますが「優れた自然の風景地」を指定するものなので、景勝地が含まれていることが多く、皆さまも旅行の中で結果的に自然公園を訪れていた、ということがあるのではないかと思います。

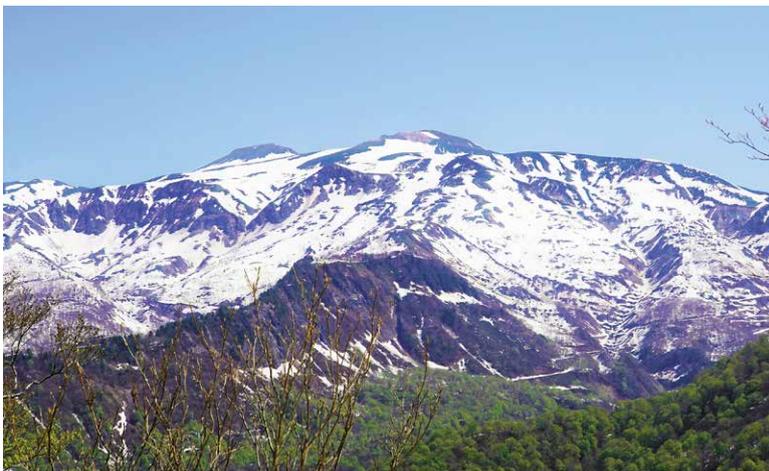
ここで、たまに「国立公園の管理者ということは、土地も国のものなのだな」という誤解を招いてしまうことがあります。先ほど触れたように、自然公園は「地域制」という形態を取っているため、白山国立公園は、昔から白山麓に住んでいる住民の皆さんの私有地や白山比咩神社さんの社有林をはじめ、林野庁が管轄する国有林など、所有者が多岐に渡る土地はそのままに、まとめて国立公園とさせていただきます。そのため、環境省が白山の中で動植物の生息状況を調査したり、登山道の補修などを実施したりする場合でも、好き勝手にできることはなく、土地所有者さんや関係機関と相談しながら、お互いが合意の上で「国立公園をこうしていこう」と日々励んでいます。



出典：石川県自然環境課

#### 4. 保護と利用の好循環

少し硬い話が続いてしまいましたが、自然公園法は第1条において「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。」と謳っています。そして「国立公園」は、「我が国を代表するに足る傑出した自然の風景地」として、環境大臣により指定されます。



岩屋俣谷園地のパノラマ展望台より臨む白山

歴史的なことを話しますと、自然公園は目的の通り、国民が心身の健康を増進するための休養地という側面があったことから、元々、自然公園行政は厚生労働省の管轄でした。自然公園は保護だけでなく、「国民の皆さんに空間を親んでもらう」という要素を非常に重要視しており、「利用促進」は大切なミッションです。



御前峰から見渡す室堂と空

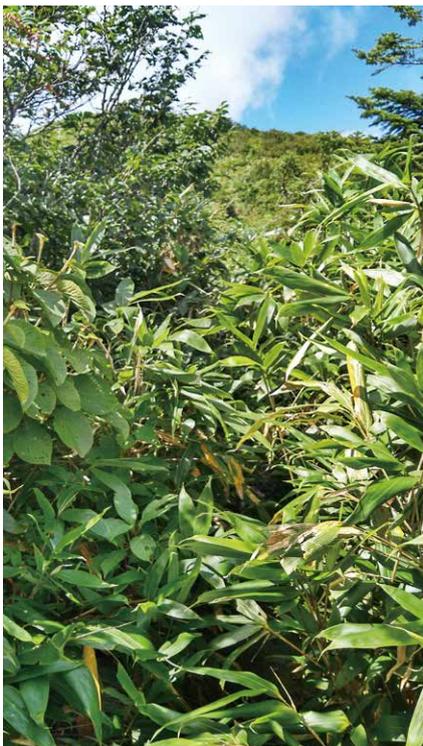
とはいえ、利用に当たってはその対象となる豊かな自然があってこそという観点から、一番大切なことはやはり「保護」になると考えられます。自然公園法の歴史を遡ると、平成21年（2009年）に、法目的に「生物多様性の確保」という文言が追加されました。この際に制度ができあがった「生態系維持回復事業」が今日の白山国立公園にお

ける外来植物対策の根本となっていますが、環境保全意識の高まりとともに、無秩序に、考えなしに利用するのではなく、自然との「適度な」関係性を築き上げることが肝要なことです。

ここで「適度な」と表現したのは、利用のために乱開発されてしまうと貴重な自然が衰退してしまうのと同じように、逆に保護一辺倒になってしまったり、人の利用が一切なくなってしまうと、国立公園としては景観を損ねることに繋がる場合があります。

分かりやすい例のため異なる国立公園の例を挙げますと、九州の「阿蘇くじゅう国立公園」などは、人々が土地を草原として利用するために「野焼き」することによって景観が維持されています。このような二次的な自然環境は、適度な人為が加わることによって保たれるものです。

人と関わってきたからこそ成立している景観は、白山にも多く広がっており、登山道はその一例です。白山国立公園は、「霊峰白山～雪と高山植物が彩る信仰の山～」というテーマを掲げているとおり、冬季の純白の雪をまとった優美な山容や、夏季に咲き乱れる高山植物のお花畑のほかに、山岳信仰の対象として親しまれてきた歴史を重要視しています。禅定道として古くから利用されてきた古道は、その信仰の歴史を感じられる素晴らしい文化そのものです。そんな登山道



中央に伸びている道がササに覆われる様子

ですが、適度に利用されている範囲であれば、登山者の踏圧で土が踏み固められ、ササなどの侵入は抑制されます。日本の植生の再生力はとても強いので、仮に主要道であっても毎年ある程度の草刈りをしなければ、ササに覆われて道が分からなくなるほどです。人の利用も少なくなっていくと、登山道に踏圧が掛からなくなると、植生の侵入も深刻になっていきます。道は利用されてこそ道を維持できるもので、使われなくなった道は、やがて廃道になってしまいます。これは極端な例ではありますが、実際に、維持管理の仕事の担い手が不足している現状を踏まえると、全国でも起こり得る問題の1つです。

理想的な形としては、保護活動を進め、とても気持ちの良い景観を維持し、快適な利用環境を創ることで、利用者が増える。そして利用者が自然体験活動や宿泊のためにお金を現地で消費し、そのお金の一部が保護活動に還元されていく。それこそがまさに昨今叫ばれている持続可能な開発目標（SDGs）の形であり、国立公園が目指している「保護と利用の好循環」になります。

## 5. より良い白山との関わりかたを目指して

昔と比べてどのように白山国立公園が変わってきたかについては、白山自然保護センターさんの研究報告などを読むととてもよく分かります。一例ですが、『白山国立公園におけるゴミ対策の現状』（岩田・殊才、1981）では、昭和48年（1973年）以前には、白山にはかなり放置ゴミがありました。ゴミ持ち帰り運動の徹底や、環境庁（当時）補助金を活用して地方自治体ともお金を出し合いながら、白山観光協会さんが主体となって美化清掃活動を続けた結果、劇的に放置ゴミが減った、とされています。そうした過去があって、現在の白山は全体的に綺麗な山になっており、登山者の皆さんにもその意識が浸透しています。

同じように、意識を変えていくことによって、白山という宝を未来に繋いでいこうとする取組の1つが、先ほども少しだけ触れた外来植物問題です。白山国立公園では元々白山に生育していなかった植物が、特に低標高域から高標高域に侵入し、高山植物の生育環境に影響を及ぼしています。そのため関係機関が連携し合い、外来植物除去ボランティアさんらの協力も得て、地道な外来植物除去活動を続けています。長年活動を継続されている方から話を伺うと、昔と比べ、特に集中して除去活動を続けてきた箇所では確かな効果を上げていると聞きます。その一方で、活



外来植物除去活動の様子



オオバコによる草木染めハンカチ

動の継続性、つまりは担い手問題という課題を抱えています。外来植物対策は継続して行うことで効果を発揮するので、事業の継続性はとても重要なことです。より多くの人に、自分事として参画してもらうにはどうすればよいのでしょうか。白山自然保護官事務所では、その1つとして、保護活動の結果を利用に転換し、多くの人に知ってもらうために、白山で外来植物として除去したオオバコを用いた草木染め体験の自然ふれあい活動を実施しています。染め物体験を楽しみながら、染料の材料となっている白山でのオオバコについて学んでもらう。そうしたことで、興味を持ってくれる人を増やすことができれば、と切に願っております。

「より良い関係づくり」の基本になるのは、「その場所をもっと好きになってもらう」ということかもしれません。白山のもっと良いものを見てもらう、知ってもらうことで、自

分もその地域のために活動してみたいという気持ちを醸成していく。それが保護と利用の好循環に繋がっていくと考えると、やはりもっと白山を好きになってもらえるように、魅力を発信していくことが重要なのかもしれません。

白山の魅力を満喫するために皆さんにお勧めしたいのが、白山への宿泊登山です。白山の素晴らしさの1つは、白山室堂や南竜山荘、野営場など、標高2,000m以上に宿泊できる場所が充実していることです。最近では、新型コロナウイルス感染症により、三密回避が今も叫ばれていることもあって、日帰り登山を楽しまれる方が増えています。もちろんそれも1つの楽しみ方ではある



南竜から見る夕日

のですが、白山では、山頂での御来光をはじめ、夕焼けや星空など、宿泊することで出会える景色もありますし、時間に余裕ができるので登山中に様々な景色をゆっくり楽しめます。白山の魅力を存分に知るためにも、また、安全登山の観点からも、宿泊での白山登山を多くの方に楽しんでもらえると、幸いです。

## 6. 結びに：白山が結んでくれたご縁

最後に、これまでの話からは毛色が変わり、私事になりますが、当方が白山国立公園に着任するきっかけとなった出来事について書き連ねたいと思います。今から6年前、当時、大学院修士1年生（農学部・森林科学専攻）だった私は、石川県出身の大学の同期に連れられて、白山に登山しに来ました。その道中の山小屋にて、当時白山の自然保護官であった松木崇司さんと偶然お会いしたのです。そこで初めて環境省の仕事、国立公園について教わりました。

松木さんは、白山国立公園を評して「雪と同じくらい、人々の思いが深いところ」と仰っていました。「国立公園行政は多くの関係者が絡み、ある人が白山にとって良いことだから進めたい、と思っても、また別の人からすると望ましくない結果になるかもしれない。そのため、いろんな人の話を聞き、思いを共にする必要がある」という教唆は、まさに白山で仕事を進める上で一番大切なことを全て言い含めたものでした。同時に、「多くの人の思いに挟まれて仕事をするのは、かなり大変で、辛いことの方が多いと思う。それでも信念を以て仕事をするので、必ず見てくれる人がいるから、やりがいを持って働ける」という言葉が、環境省を志望するきっかけとなりました。

こうしたことから、私見ではありますが白山は「緑の山」ではないかと、そんな風に思います。

白山国立公園指定60周年は、平成29年（2017年）に開山1300年を迎えた白山の歴史に比べると、まだまだ年月の浅い小さなものです。それでも、白山が国立公園として保護・利用の取組が行われてきて、歴代の保護官が丁寧に積み重ねてきた縁のおかげで今の私がこの地において、仕事ができている。そのご縁を結んでくれた白山に恩返しをするような思いで、白山を愛する人たちの一人として、関わる皆さんと共に汗を流し、共に知恵を絞り、白山をよりよくしていく一歩にしていくことができればと思います。

これからも、白山を国立公園という観点からも親しみを持っていただければ幸いです。



学生時代に仰ぎ見た白山

# 第7期白山自然ガイドボランティア養成講座を終えて

川島 敦仁（白山自然保護センター）

## 白山自然ガイドボランティアとは

白山自然ガイドボランティアは、白山国立公園及びその周辺地域における自然体験活動を通じて、白山を訪れる人々へ自然の素晴らしさや大切さ、人と自然との共生について考え、理解して頂くことを念頭に、その普及啓発をねらいとして平成12年に白山自然保護センターが募集し、活動を開始しました。白山自然ガイドボランティアは、令和4年8月現在で76名の方が登録されています。年齢層も20代から80代まで、また、仕事を持たれている方や退職された方と様々です。白山自然ガイドボランティアになった方は、「自分自身、新たな感動体験を得たい」「感動体験を出会った方と共有したい」「自然の不思議さ・巧みさを伝えていきたい」などの熱い思いで取り組んで頂いています。始めに、白山自然ガイドボランティアの皆さんに関わって頂いている活動をご紹介します。

活動	時期	内容・場所
ガイドウォーク	春～秋	観察路を希望者に同行して解説 中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター周辺の観察路
かんじきハイク	冬	かんじきを履いて動物の痕跡を探すなど ブナオ山観察舎周辺
楽しもう！白山麓days	各季	各季で異なり、中宮展示館周辺において春～秋にかけて観察路巡り、夏は河原で川遊び、冬はブナオ山観察舎周辺でかんじきハイク
白山まるごと体験教室	各季	各季で異なり、お花炭づくり、河原で川の生物や石ころの観察、冬も森で動物の痕跡を探すなど 白山麓の各地（スタッフとして参加）

以上の活動や行事において参加された皆さんに楽しんで頂くためには、白山自然ガイドボランティアの皆さんの日々の研鑽は欠かせません。そこで、センターでは、白山の自然の素晴らしさを伝えていただくために、ガイドボランティアの皆さんに、白山麓の自然や文化に対するより深い知識を身につけていただこうと、年3回の研修講座を開いています。

今春の第1回研修講座では、白山市白峰地区にある白山ろく民俗資料館において、前館長の山口一男氏より「白山麓の暮らしと文化」と題して、講演を頂き、白山麓の手作り文化などご紹介していただきました。また、研修講座だけでなく、もっと自由な形の自主研修も行っています。ガイドボランティアの方から「こんな研修を開いてほしい」の声を参考に毎年、各研修を行っています。



第1回ガイドボランティア研修講座

## 白山自然ガイドボランティア養成講座

白山自然ガイドボランティアは、養成講座を受講して登録されます。養成講座は平成12年の第1期生募集以降、3～4年に1度実施しており、5月から7月の間に3回行う講座を受講することで白山自然ガイドボランティアとして登録されます。今年は平成30年以来、4年ぶりに第7期生の養成講座を行いました。第1回は5月に中宮展示館で2日間実施、白山自然ガイドボランティアの目的、活動内容について講義を聞いたり、観察路を歩いての現地研修を行ったりしました。6月は市ノ瀬ビジターセンターで観察路を歩いての現地研修、7月は危機管理に関する講義として白山消防署にて救急救命法講習を行い、これらの講座を受講した後、9名の方が第7期生の白山自然ガイドボランティアとして登録されました。今回、その時の様子を少し取り上げてご紹介します。

### <第1回> (1日目) 5月21日 (土)

オリエンテーションで白山自然ガイドボランティアの概要について説明を聞きました。その後、講義に入る前に、受講者が互いに知り、和やかな雰囲気の中で行えるように、自己紹介を「実は私、〇〇なんです!」と「24時間以内に起こった楽しいこと」の2つ盛り込んだ形でお願いしました。短い時間でしたが、受講者の個々の一面が垣間見え、雰囲気が少し和みました。午前中最初の講義として、中宮スタッフによる講義「中宮展示館とその周辺施設について」、その後、先輩ガイドボランティア1名ずつが指導する形で、受講者を3班に分け、先輩ガイドによるガイドウォークを開始しました。猿ヶ浄土コースで行い、先輩ガイドとの交流も活発になり、予定より30分程度の時間が超過となりました。午後は、13時より先輩ガイドによる講義「白山の自然の素晴らしさを伝えるには」を聞き、2日目午後の行う受講生のガイド実践に向け、レクチャーホールにて班ごとに午前中のガイドウォークの際に取ったメモに基づいてネタ探し、ネタづくりを行いました。その後、各自が考えたネタを班としてまとめ上げる時間としました。自分のメモに基づき、しっかりと何を観察路のどこでどのように伝えようかまで考えている班、ホワイトボードに描かれたコース図をもとに思い出しながら書きとめる班など、班ごとの工夫が見える1日目でした。



白山の自然の素晴らしさを伝えるには

### <第1回> (2日目) 5月22日 (日)

2日目は、先輩ガイドによる講義「伝える人になろう」から始まりました。受講生に樹木の断片など実物を提示し、においを嗅いでもらい、そこで質問を投げかけたり、やり取りしながら講義は進められていきました。自らが面白い、感動しないものでなければ、人にはその思いは伝わらないなど、自らのこれまでの体験を交えながら話をして頂きました。講義終了後は、前日やり残した実践に向けての準備の後半戦として時間を活用しました。前日のうちにあ



ガイド実践に向け、班ごとに検討

る程度進めた班は、この時間を使って実際に観察路に足を運び、ガイドの練習を先輩ガイドや班員からのアドバイスのもとに行い、午後の本番に向けて修正・確認をしていました。午後の予定は、実践・評価に時間にゆとりを持たせるために少し早めて行うこととしました。

12時40分、いよいよ受講生によるガイド実践スタートです。各班ごとに、猿ヶ浄土コース内で絞り込んだポイントでガイドを他の班の受講生や先輩ガイドを対象に行います。その後、現地で先輩ガイドよりアドバイスを頂きます。すべての班が終わり次第、レクチャーホールに戻り、他の班の受講生から、付箋に書いたアドバイスや感想をもらう流れです。1班は、国立公園内での諸注意を皮切りに、ニワトコの木、クルミの木、炭焼き小屋跡の紹介に続き、鳥のさえずりからウグイス、托卵をする鳥へと解説を繋いでいきました。アケビの花のめしべを手の平に乗せ、倒れためしべに振動を与えると自立していく様子を実演して見せるなど、先輩ガイドに教えてもらったことを取り入れながらガイド実践をしていました。2班のガイド実践では観察路にある木々に注目。ケヤキの木の紹介では、昔、人が生活のために切った跡や雪崩の影響など、その姿からこの地の歴史がわかることを話されていました。3班では、出作り小屋のこと、蛇谷自然観察路、ラショウモンカズラの名の由来などをネタにガイド実践が行われました。先輩ガイドからは、足元に咲く花から山全体にまで広がりのある説明がよかった、季節に合わせたガイドがよかった、話をする雰囲気づくりがよかったなど肯定的な感想がありました。ただ、説明をする際は声の大きさや話す速さだけでなく、見学者の列が長くならないよう配慮することなども配慮してくださいとのアドバイスも頂きました。



自ら選んだ地点でガイドを実践

## <第2回> 6月12日(日)

今回も、講義に入る前に、受講者が互いに知り、和やかな雰囲気の中で行えるように、「私のモットーは……です」を盛り込んだ形での自己紹介をスタッフも含めて行いました。午前中最初の講義として、市ノ瀬スタッフによる講義「市ノ瀬ビジターセンターとその周辺施設について」、その後、先輩ガイドボランティア1名ずつが指導する形で受講者を3班に分け、先輩ガイドによるガイドウォークを開始しました。市ノ瀬園地を経由して、今宿口側から岩屋俣谷自然観察路を登るコースで実施しました。

午後は、13時よりレクチャーホールにて各班で午前中のガイドウォークの際に取ったメモに基づいてガイド実践のための準備を行いました。今回は、班単位でのガイド実践ではなく、個人単位のガイド実践です。各自が考えたネタをまとめ上げる時間に活用します。自分のメモに基づき、何をメインに、どのように伝えようか、先輩ガイドのアドバイスに耳を傾けながら、ホワイトボードに描かれたコース図に各自でまとめていきました。また、時間的なロスも考慮し、観察路のポイントで行うのではなく、レクチャーホールにて各自がホワイトボードにまとめた図を使い、発表する形に変更しました。14時より、受講生一人の持ち時間は、発表と先輩からの一言を含め、10分という時間設定で実施しました。今回は、個人による発表ということもあり、より個



先輩ガイドによるガイドウォークで技術を学ぶ

人の興味関心が明確に表れる発表となりました。観察路の様々な植物、樹木や牛首川、手取川、そして、白山地域の成り立ちまでと、各自でここでは是非伝えたいことをまとめたガイド実践となりました。先輩ガイドの一言では、1つの花について掘り下げた説明やわかりやすい説明に対する称賛の声がありました。よりよいものにするためには、個々の説明のつながりを大切にできればとのアドバイスを頂きました。第2回では、ガイド実践を受講者の方々が各自でホワイトボードにまとめたものをベースに、個々に発表でき、受講者が互にじっくり聞いたことや時間が有効に活用できたことで、とても有意義であったと思いました。



ホワイトボード（コース図）を活用した個別発表

### <第3回> 7月3日（日）

午前中は、白山消防署にて、応急手当講習テキストとプレゼンによる救命救急講習を受講しました。「心停止の予防」、「心停止の早期認識と通報」、「一次救命処置（心肺蘇生とAED）」、「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の四つの輪が途切れることなく、すばやく行われることで救命効果が高まる、救命の連鎖の話から始まり、ガイド時にも起こりうる、熱中症、スズメバチによるアナフィラキシーやヘビ毒の対応の他、心停止の原因やその後の救命措置について学びました。実習として、心肺蘇生を行いました。胸部圧迫は、強く、速く、絶え間なくを意識して圧迫、受講生もひとりで2分間も続けると、息も荒くなってきました。選手交代で隣の受講生が続けます。AEDも使ってみました。気道異物の除去法や止血法など学び、3時間の講習を終えることができました。午後は、場所を吉野工芸の里（アート&クラフト館）に移して、いよいよ最後の締めの講習です。白山自然ガイドボランティア会長より、「白山自然ガイドボランティアの一員となるにあって」のお話をして頂きました。その話の中で、会長ご自身がなぜ白山自然ガイドボランティアをやるようになったか、そのわけや、自然ガイドボランティアとしての心構え、人への接し方など、これまでの蓄積された経験を失敗談も交えながら話して頂きました。3回の養成講座を終えるあたり、受講生間の情報交換を含め、自発的に声を掛け合い、話し合う場面がさらに多く見られ、今後、白山自然ガイドボランティア第7期生としての横のつながりが強くなったと思えました。また、会長さんより、ガイドボランティアとしての自覚を促すような強いメッセージを頂き、とても良い講座の締めくくりとなったと思います。今後は、先輩ガイドと共にしばらくはガイドウォークに同行し、各期の先輩方からガイド法をさらに学んだり、今後開催されるガイドボランティア研修講座や自主研修講座に積極的に参加していただけたらと思います。読者の方で、白山自然ガイドボランティアに興味を持たれた方は、HPやツイッターをチェックして下さい。是非、入会へのご一考よろしくお願ひします。



胸部圧迫による心肺蘇生実習

# 自動撮影カメラが捉えた登山道（楽々新道）の動物たち

近藤 崇（白山自然保護センター）・北市 仁（自然環境課）

## はじめに

登山をする“ヒト”が歩く登山道ですが、実は、“ヒト”以外の動物も利用しています。登山をしている時は、動物を直接見る機会はありませんが、食べ痕や糞、足跡などの痕跡は見たことがあるかと思います。余談ですが、今年の夏に北アルプスのとある山に登りに行った際に、200m以上に渡って数十個のサルの新鮮な糞があり、そこを通り抜けるまで臭いが……。しかし、行きかう登山者は苦笑いしながらも明るい声で、「この先も続いているから気を付けて」などと声を掛け合っていました。大量の糞の臭いは困りますが、動物の痕跡を見つけると少しうれしくなりますね。

今回は、白山の北側の登山道の一つ、楽々新道のダケカンバやオオシラビソが生えている場所（標高1700m程度）に、ニホンジカの調査のため、動物が前を通ると赤外線センサーが反応して撮影する自動撮影カメラを設置した時に撮影された動物たちを紹介します（ニホンジカについての詳細は研究報告第48集:39-42参照）。



写真1 ニホンザルの糞

## 撮影された動物たち

2020、2021年の8～10月の期間に、登山道沿いに2台の自動撮影カメラを設置しました。その結果、ニホンノウサギやニホンリス、ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマなどの13種の動物たちが撮影されました（表1）。石川県内でみられる大部分の中大型哺乳類が登山道をひっそりと通っており、獣道としても利用されていることが分かりました。人間に歩きやすい道は動物にとっても歩きやすいため利用されているのかもしれませんが。また、県内の標高の低い地域では確認されている外来種のハクビシンですが、今回は確認されませんでした。また、本来の調査目的であるニホンジカについては、撮影頻度は低いものの、単独のオスが確認され、標高の高い地域に侵入している初期段階と推測されました。

このほか、哺乳類だけでなくヤマドリやアオゲラ、ホシガラス、クロツグミといった鳥類も撮影されました。



写真2 設置した自動撮影カメラ

表1 自動撮影カメラで撮影された動物

目	科	和名
サル目	オナガザル科	ニホンザル
ウサギ目	ウサギ科	ニホンノウサギ
ネズミ目	リス科	ニホンリス
	ネズミ科	ネズミの仲間
ネコ目	クマ科	ツキノワグマ
	イヌ科	タヌキ
		キツネ
	イタチ科	テン
		イタチ
		アナグマ
ウシ目	ウシ科	ニホンカモシカ
	イノシシ科	イノシシ
	シカ科	ニホンジカ

### おわりに

自動撮影カメラの結果から、登山道（楽々新道）は多くの動物たちも利用していることが分かりました。登山の際に、糞や足跡などの痕跡からどのような動物が通ったのかなど考えてみるのも楽しみの一つにいかがでしょうか。運が良ければ、動物たちに出会えるかもしれません。しかし、その中にはツキノワグマも含まれているため、クマ鈴などで早く自分の存在を気付いてもらえるように対策をお願いします。



写真3 撮影された動物たち

# 白山のアリヅカムシ（その2）

中田 勝之（白山自然保護センター）

## 1. 世界中で白山にのみ生息する2種のアリヅカムシ

前回に引き続きアリヅカムシのお話です。今回は世界中で白山国立公園にのみ生息するハクサンツノアリヅカムシ（以下、「ハクサン」。）とゴジラツノアリヅカムシ（以下、「ゴジラ」。）を紹介します。

なお、以下について、これまで各種学会で口頭発表していますが、作成中の論文で、詳細な採集地点等を明らかにするため、本原稿では登山道名のみを記述しています。

### （1）ハクサンとゴジラは白山固有種

白山に生息する好蟻性（他の昆虫等がアリの巣に寄生すること）アリヅカムシは、表1のとおり筆者の調査で6属8種が記録され、調査地点別の採集記録も同表のとおりでした。

そのうち、ハクサンとゴジラは白山だけに生息する固有種で、前者は三ノ峰周辺、後者は楽々新道と中宮道において、僅かな個体が見つかるだけの非常に稀な種であり、採集された標本は世界中で国立科学博物館等に所蔵されるほか、筆者保管標本のみとなります。

表1 これまでの調査で採集された好蟻性アリヅカムシ及び各調査地点の採集記録

No.	学名	和名	採集地点							
			加賀 禅定道	楽々 新道	中宮道	別山 市ノ瀬道	蛇谷 観察路	大嵐山	赤兎山	三ノ峰
1	<i>Basitrodes godzilla</i>	ゴジラツノアリヅカムシ		○	○					
2	<i>Basitrodes hakusanus</i>	ハクサンツノアリヅカムシ								○
3	<i>Basitrodes oscillator</i>	ジョウエツツノアリヅカムシ					○			
4	<i>Batrisodellus palpalis</i>	ヨコヅナトゲアリヅカムシ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	<i>Batrisus politus</i>	エグリチイロアリヅカムシ		○	○					
6	<i>Dendrolasiophilus concolor</i>	ツヤクサアリアリヅカムシ	○				○			
7	<i>Diatiger fossulatus ispartae</i>	コヤマトヒゲアリアリヅカムシ中部北陸亜種		○						
8	<i>Tmesiphorus princeps</i>	オオヒゲカタアリヅカムシ	○					○		○

### （2）ハクサンとゴジラが初めて人類に見つかる

次に、両種の発見経緯を説明すると、ハクサンは、1994年7月10日に砂防新道の標高1,700～1,900mの登山道そばの石下のヤマクロヤマアリの巣の中から、ゴジラは、同年7月31日に岩間道のヤマトアシナガアリの巣から発見・採集されました（※岩間道は現在通行できません）。

なお、当時の筆者の知識と経験では、これらの個体が既に知られた種類か、若しくは新種か判別することが出来なかったため、そのまま標本箱に収納してしまいました。つまり、その時点では、両種は見つかったものの、ハクサンとゴジラの命名はされていなかったのです。

### （3）ハクサンとゴジラが学界に知られる

その後、アリヅカムシの指導教官である国立科学博物館の野村周平博士に当該2種の発見を伝えると、すぐに見たいとのことで、標本をお送りしたところ、どちらも新種！との連絡があり、ニヤニヤしながら、とても嬉しかったことを思い出します。

その後、野村先生により2002年に日本甲虫学会学会誌第1号でハクサンが、第2号でゴジラが新種として発表され、両種が世界中で白山だけに生息することが明らかになりました。



図1 ハクサン



図2 ゴジラ

#### (4) ゴジラは日本で一番有名なアリヅカムシ

さて、ゴジラは、他種よりも大型で体表面の凹凸が怪獣を彷彿させることから、“ゴジラ”に起因していると先生の論文に書かれていますが、先生との事前の意見交換では当時、本種と同じ石川県出身の大リーグヤンキースの松井秀喜選手のニックネームが“ゴジラ”で、松井選手のゴツゴツした感じが本種と共通していることなどが背景にあることを話し合ったものです。

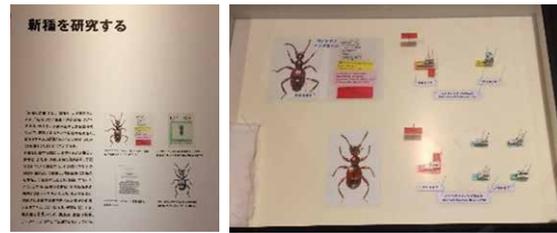


図3 「昆虫展」のゴジラの展示

その後、2018年に東京、翌年大阪で開催された国立科学博物館主催の「昆虫展」では、図3のとおりゴジラ標本が大きく展示されたほか、最近の同館紹介のテレビ番組でも、たびたびゴジラが紹介され、今のところゴジラは、日本で一番有名なアリヅカムシですね。

## 2. 寄主アリと好蟻性アリヅカムシの関係

一般的に、好蟻性アリヅカムシが寄生するアリを寄主アリと呼び、両者の関係は表2のとおりです。

表2 寄主アリと好蟻性アリヅカムシの関係

	シワクシケアリ	ヤマトアシナガアリ	アミメアリ	クロヤマアリ	アカヤマアリ	ヒゲナガアリ	クロクサアリ	キイロケアリ
ゴジラツノアリヅカムシ		○						
ハクサンツノアリヅカムシ	○							
ジョウエツツノアリヅカムシ								○
ヨコツナゲアリヅカムシ	○	○	○	○	○	○		
エグリチイロアリヅカムシ	○					○		
ツヤクサアリアリヅカムシ							○	
コヤマトヒゲアリヅカムシ(中部北陸亜種)						○		
オオヒゲカタアリヅカムシ				○				

ゴジラは、1種類の寄主アリの巣からのみ見付かっており、ハクサンは、1994年の調査時、ヤマクロヤマアリの巣から採集されましたが、

その後の調査ではシワクシケアリの巣からのみ採集されており、大変興味深いと考えられます。

## 3. ツノアリヅカムシ属の垂直分布

すでにご説明した表1のとおり、ハクサンとゴジラ及びジョウエツツノアリヅカムシ（以下、「ジョウエツ」。）は同じツノアリヅカムシ属の仲間です。このツノアリヅカムシ属に注目し、標高別に生息状況を確認した垂直分布が図4のとおりで、ジョウエツは低標高地に、ゴジラは1,000m～1,400m、ハクサンは1,600m～1,700mの標高に分布することが分かっています。そのため、これら3種は、標高別に棲み分けを行っている可能性が考えられました。

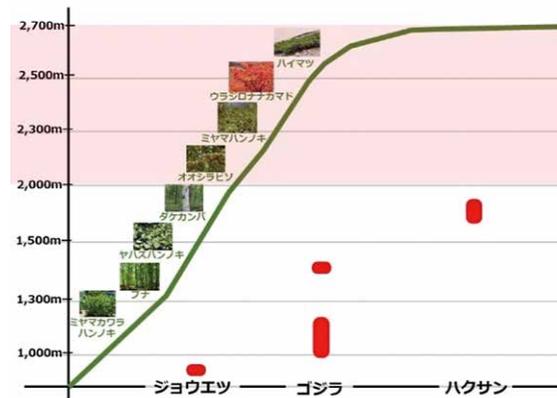


図4 ツノアリヅカムシ属の白山の垂直分布

なお、ゴジラの寄主ヤマトアシナガアリは、800～1,400mに、ハクサンの寄主シワクシケアリは1,200～1,800m、ジョウエツの寄主キイロケアリは800～1,300mに分布しており、棲み分けの原因が寄主アリの分布だけによるものではなさそうであり、今後の詳しい調査が必要です。

## 4. ハクサンとゴジラが白山にのみ生息する理由

これまで、筆者を含む何人もの研究者が立山や日本アルプス等で好蟻性アリヅカムシ類を調査していますが、両種は見つからず、なぜ白山だけにこの2種が分布しているのか、分かっていません。

今後、さらに標本を集め、遺伝子解析等により近縁種との関係や進化の過程が明らかになることで、両種が白山にのみ生息する理由が明らかになるかもしれません、少々先の話になるでしょう。

## センターの動き (令和4年7月1日～9月30日)

- |      |                      |        |      |                         |        |
|------|----------------------|--------|------|-------------------------|--------|
| 7.3  | 第3回白山自然ガイドボランティア養成講座 | (白山市)  | 8.11 | 県民白山講座「白山の自然・文化を知る」     | (金沢市)  |
| 7.3  | 外来植物除去ボランティア研修講座     | (白峰)   | 8.11 | 第2回ガイドボランティア研修講座        | (白山市)  |
| 7.9  | 蛇谷峡谷&蛇谷風景林で見る・遊ぶ・学ぶ  | (中宮)   | 8.20 | いしかわ環境フェア 2022 (～21日)   | (金沢市)  |
| 7.16 | 中宮水遊び days (～24日)    | (中宮)   | 8.24 | インターンシップ                | (センター) |
| 8.5  | 筑波大学「世界遺産演習」         | (センター) | 9.10 | オオバコ等除去 in 南竜ヶ馬場 (～11日) | (白)    |

### 南竜野営場の新トイレが供用開始



新トイレ外観



トイレ内の様子



個室内の様子

令和2年に供用開始した白山室堂公衆トイレの改修に続き、白山山頂部で唯一の野営場である南竜ヶ馬場野営場の新トイレが令和3年度中に完成し、今シーズンから供用を開始しています。昭和55年に建てられた旧トイレは、汲み取り式で老朽化も著しかったのですが、上記写真のとおり美しく生まれ変わりました。

和式トイレは全て洋式化され、女子トイレを4穴から5穴に増やしました。また、汲み取り式が水洗化されたことにより、臭いが激減し、し尿処理も自然の浄化力を活かした敷地内で土壌処理する無放流の方式に生まれ変わりました。皆様のご利用お待ちしております。

### たより

染谷保護官にご寄稿頂いたとおり、白山は国立公園に指定されてこの11月には60周年を迎えます。ところが、8月の大雨被害は白山にも影響を及ぼし、登山施設には大きな被害が無かったものの、楽々新道を始め北部白山各登山道へのアクセスが難しい状況となりました。また、中宮展示館が石川県側からのアクセスが不通になるなど、まともや一時閉館を余儀なくされるとともに、蛇谷自然観察路が被害を受け、利用できない状態での秋を迎えました。加えて、新型コロナにより室堂が営業休止になる影響が出るなど、ハプニング続きの夏となりました。

暗い話が多い中、上記のとおり南竜野営場トイレが建て替えられました。これで、一部のトイレを除く全ての山頂部トイレが水洗化されましたので、来シーズンこそはぜひ多くの方に白山登山をお楽しみ頂きたいと思います。

(宮崎)

### はくさん 第50巻 第2号 (通巻196号)

発行日 2022年10月12日 (年3回発行)  
印刷所 株式会社大和印刷社

### 編集・発行

石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑又4  
TEL. 076-255-5321 FAX. 076-255-5323  
URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>  
E-mail. [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)

本誌は、再生紙へのリサイクル可能な用紙を使用しています



### ニュージーランド イーストケープ神秘の森で採れた

はちみつ

琥珀

ニュージーランド産 純粋はちみつ500g

1本で 1,512円 税込 送料550円 送料別

2本で 3,024円 税込 送料 **無料**

ニュージーランドのはちみつは世界中で大人気。中でも北島東部のイーストケープには神秘的な原生林の蜜源が広がっています。神秘的な蜜源はマヌカ、カマカヒナワ、レフレワ、クローバーなどの花。ニュージーランドの気候と土壌が、イーストケープの森で濃厚な濃い琥珀色のはちみつをつくりました。濃い琥珀色はちみつはミネラルたっぷり、特に洋梨との相性バッチリ。健康とおいしさのバランスをそのまま、使いやすいスタンドボトルにしました。

片手で便利なワンタッチ! 人気のボトル!! 広告

Tel 050-1865-6367

株式会社 武州養蜂園

〒360-0831 埼玉県熊谷市久保島 945-1

◆申し込みは広告のフリーダイヤルにて受付 ◆発送は3～4日以内 ◆お支払い：到着後1週間以内に郵便局、コンビニで振り込み (手数料は当社負担) ◆返品：商品到着後、8日以内未開封のもの (送料当社負担) ◆個人情報：商品の発送のご案内にのみ使用されます。◆蜂蜜ですので一歳未満の乳児には、与えないで下さい。